

ヒシクイ(*Anser fabalis*)保護のための 教育・宣伝活動

雁を保護する会
呉地 正行 宮林 泰彦

はじめに (活動の目的)

雁を保護する会では日本に渡来するガン類の保護を軸とした活動を行なっている。かつては各地で普通に見られ、日本人となじみが深かったガンだが、現在ではその生息地の多くが失われ、限られた場所でしか見られない特殊な鳥になってしまった(図1)。本会ではこれらの天然記念物でもあるガンとその残された生息地を保護しつつ、将来は再び各地にガンを呼び戻したいという願望を持っている。

ガン類とその生息地を保護するためにはその生態、とりわけ移動のコースや繁殖地・中継地を解明し、それらを包括的に保護することが必要である。わが国に渡来するガン類のうち、特にヒシクイ(亜種ヒシクイ *A. f. serratirostris* 及び亜種オオヒシクイ *A. f. middendorfi*)については、これまでの本会とカムチャツカの研究者と共同で首環を用いた標識調査によってカムチャツカに生息するオオヒシクイとヒシクイの2亜種が多数日本へ渡来することを突き止め、国内での渡りコースについても多くの知見を得つつある。ヒシクイの保護を考える際の貴重な資料となるこれらの知見を更に充実させ、保護にむすびつけてゆきたい。ヒシクイの保護のための教育・宣伝活動に対して、1989年度に助成を受けたのに続き、1991年度も助成を受けることができた。ここでは、1991年度の活動報告を行なう。

活動報告

a. 調査活動およびその報告会

1991年、ソ連(当時、以下同様)のカムチャツカ州が外国人にも開放され、我々がヒシクイの繁殖地域を訪れることが可能になった。1991年7月、本会の調査メンバー6人が現地を訪れ、ゲラシモフ博士と共にヒシクイの標識調査を

行なった(呉地正行 1991a)。本年度は、カムチャツカ中西部のズベズドカン湖で147羽の亜種オオヒシクイに首環を装着することができ(写真1)、これらの標識鳥はその多くが91/92年度冬期にわが国に渡来したことが、全国各地に在住する会員および協力者によって確認された(現在データを取りまとめ中)。

1990年9月のソ連マガダンにおける『北アジアにおけるガン類個体群』に関する国際シンポジウム(ソ連科学アカデミー北方生物問題研究所主催)において、環太平洋7ヶ国による『旧北区東部湿地』ネットワークが結成された。本会もこのネットワークに参加し、共同調査を進めることになった。その第1年度である本年度、マガダン州のアナドゥリ低地で、日ソ米3ヶ国による共同調査が行なわれ、本会メンバーも参加した。ここでは、本格的な標識調査のため

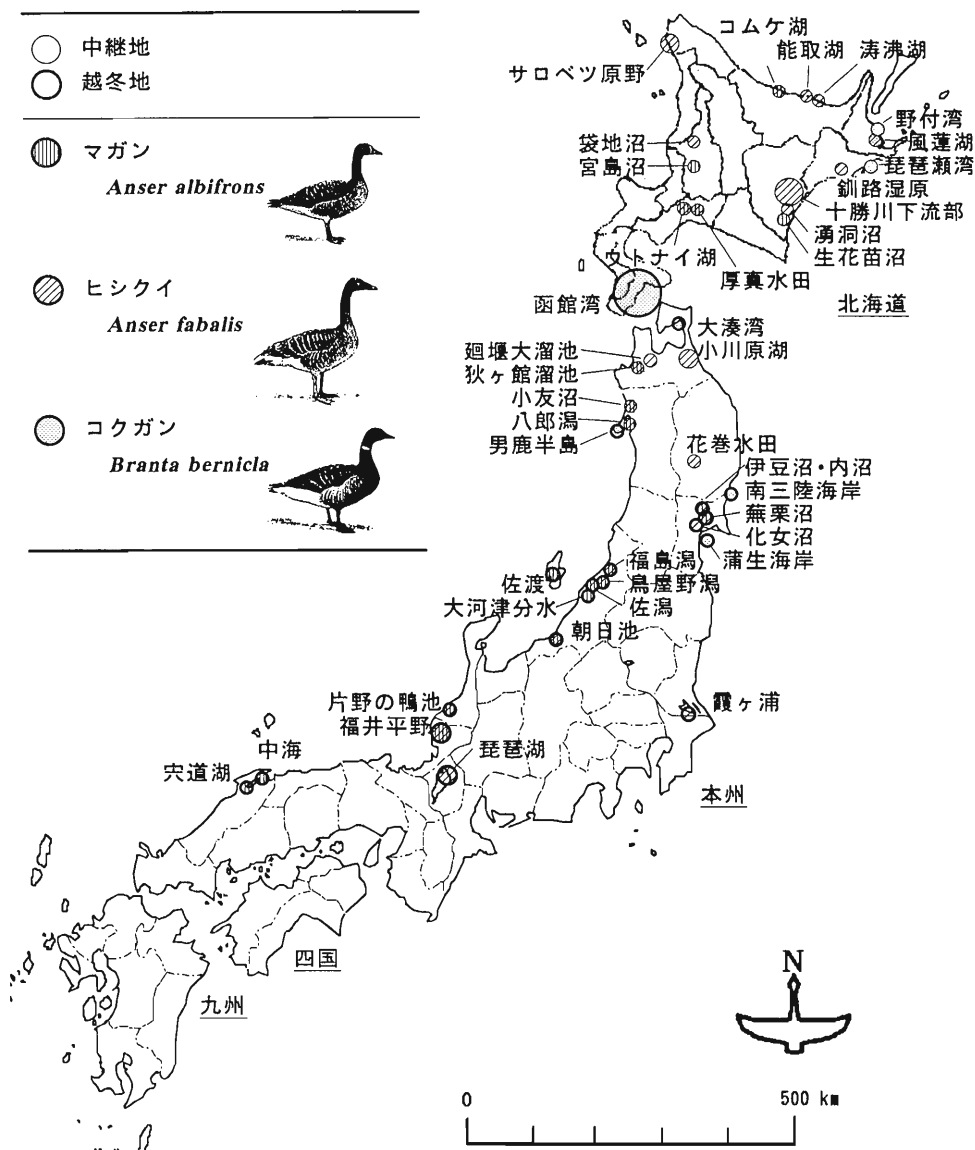


図1. わが国における主要なガン類渡来地

の予備調査が行なわれた(池内俊雄 1991)。当地は、亜種ヒシクイが繁殖する最も北東の地域であり、わが国に渡来する個体群との関係を明らかにすることが望まれている。

ガン類の日ソ共同標識調査報告会(仙台市) 1991年8月25日

これら共同調査の報告会を仙台市民会館において91年8月25日に開催した。マスコミ等を通じて広く市民一般にも参会を呼びかけ、当日は約30名の参会を得、スライドやビデオを用いて報告した。

b. 雁の里親キャンペーン

本会が進める標識調査の首環の経費を援助いただくとともに、標識鳥と名目上の親子関係を結んで自分の里子への愛着を通して、広く鳥や自然環境そのものに対する関心を高めていただくとする、この雁の里親キャンペーンに本年度も力を入れた(永石文明1992)。このキャンペーンは今期で第7期を迎えた。

本年度はカムチャツカ州のズベズドカン湖で標識されたオオヒシクイの里親を募集し、211個人・団体、延べ659名の方々が里親に応募いただいた。本年度の「雁の里親の集い」は91年12月14-15日に、オオヒシクイの越冬地のひとつ新潟県豊栄市の福島潟において、地元の「福島潟野鳥の会」との共催で実施した。

第4回雁の里親の集い

初日、14日は豊栄市博物館で、91年夏のアナドゥリ低地で実施した共同調査の報告をスライドを用いて行ない、併せて関連のビデオも上映した。翌15日は、福島潟へ出かけ、越冬しているオオヒシクイの生態を観察し、里子の標識鳥を捜した。里親の方々を中心に約50名の参加を得た。

c. 南限のガンの保護運動

わが国においてガンが越冬している南限は、太平洋側では霞ヶ浦、日本海側では琵琶湖北部であり、どちらもオオヒシクイが越冬している。南限のガンを十分保護することは、ガンの現状を維持する上からも、また将来、ガンの分布拡大を考える上からも重要である。

霞ヶ浦では、すでに前年度に第7回ガンのシンポジウムを開催し、オオヒシクイ生息地の鳥獣保護区化などの保護策を行政等に訴えてきた。ところが、オオヒシクイの生息地の一部を通過する首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の建設にともなう環境アセスメントからオオヒシクイの生息が欠落しており、これを地元自然保護団体が指摘して大きな問題になった。本会でも事態を重くみて、所管官庁に生息地の保護等に関する要望書を提出するなどの保護を訴えている(呉地正行 1992)。まだ、事態は進行中であるので、今後もその保護を広く社会に訴えてゆきたい。

一方、日本海側の南限である琵琶湖北部では、オオヒシクイの越冬数の減少が見られ、その保護を強化してゆく必要がある。そこで、第8回ガンのシンポジウムを当地で開催し、その保護を訴えた。

第8回ガンのシンポジウム

1991年11月23—24日に、琵琶湖北部の滋賀県湖北町において開催した。初日はここに越冬するオオヒシクイの生態を観察し、2日目に湖北野鳥センターにおいて「ガン類渡来地の保護をいかに進めるか?」というテーマで会議を行なった。会議では、まず全国各地のガン類生息地からその現状と保護上の問題点を話題提供していただき、その後テーマに沿った討議を行なった。最後にガン類渡来地の保護に関するアピールを採択した(写真2)。当日は、約30名の参加を得た。

ガン類渡来地目録

ガン類渡来地の保護を進めるために、各渡来地の基礎情報を集めた「ガン類渡来地目録」の作成を始めた。この目録によって各地の現状や保護上の問題点を概観することができ、各地でガン類の保護・観察に関わる人々が容易に他の地域の状況を参照することが可能になり、保護のための市民の声を発揮しやすくなる。またガン類の渡来地がおかれている状況を広く社会的に明らかにすることにより、行政的な保護対策もより効果的に行なわれることが期待される。本年度は第8回ガンのシンポジウムにあわせて、その暫定版を発行した(呉地正行編 1991b)。シンポジウムでの討論を踏まえて改善と充実をはかり、正式版を近い将来発行する予定である。

d. ソ連の共同研究者の講演会の開催

本年度、ソ連の共同研究者2名(ソ連科学アカデミー北方生物問題研究所、コンドラチェフ博士及びエッテンコ博士)をわが国に招待し、ガン類の越冬状況を共同で調査した。その機会に、この研究者による講演会を開催した。彼らが自国で調査研究しているガン類の夏期の生態を紹介いただき、ガン類の生態をよりいっそう理解する良い機会となった。91年12月18日は宮城県若柳町において一般市民を対象として開催し、翌19日は東京・中野サンプラザで日本野鳥学会に主催をお願いしての学術講演会となった。

これからの活動

1993年6月に北海道の釧路において、ラムサール条約締約国会議が開催される。ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、ガン類の生息環境はそのほとんどがこの条約の対象となる湿地である。そこで、この会議に向けて、ガン類生息地の保護をよりいっそう強く社会に訴えてゆきたい。

そのために「ガン類渡来地目録」を完成させ、これを軸に活動を進めたい。また、先に記したように、ガン類を保護するためには、わが国にある中継地・越冬地だけでなく、彼らとその長距離の渡りの際に利用する国外における中継地や、その繁殖地をもあわせて保護する必要がある。そこで、それらの国々(ソ

連、南北朝鮮、中国)においてもガン類の渡来地の目録を作成するよう、各国の研究者に働きかけ、ひいては共同でガン類の保護を進めてゆきたい。

本会では、かつてわが国にも多数が渡来したが、現在ではほとんど来なくなってしまったシジュウカラガン *Branta canadensis leucopareia* やハクガン *Anser caerulescens* を再びわが国に渡来させようとする計画を持っている。この計画を実現するためにも、現存のガン類の生息地は、決して失われることがないように、そしてその環境収容力を高める努力を行なわなくてはならない。さらに、すでに失われてしまった渡来地にガンを再び呼び戻すことができるように環境を復元してゆくことも広く社会に訴えてゆきたい。

本年度の活動に関する主な文献

- 池内 俊雄. 1991. オイツク探検隊のシベリア珍道中記. BIRDER 5(11) : 38-47. 及び5(12) : 34-43.
- 呉地 正行. 1991a. カムチャツカ半島のガン. 雁のたより No.38 : 9-18.
- 呉地 正行 編. 1991b. ガン類渡来地目録 (暫定版). GOOSE STUDY No. 4. 92pp.
- 呉地 正行. 1992. ガンの越冬地 伊豆沼と霞ヶ浦が危ない. BIRDER 6(6) : 52-57.
- 永石 文明 編. 1992. ガン類の渡りを探る. BIRDER 6(6) : 14-23.



▲ズベズドカン湖(カムチャツカ)におけるオオヒシクイの標識調査 91.7.18



▲第8回ガンのシンポジウム(琵琶湖) 91.11.24